

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式														
E142G008		代数学 (Algebra)																				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																
選択	2	4	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 田中 康彦(理工) E-mail 内線																
授業の概要	代数系(環や群)の基礎的な扱いに関して、代数学全般を俯瞰しつつ、やや発展的な内容にいたるまでの講義を行います。まずは実例をつがさに観察して、演算の本質的な性質を抽出することからはじめます。ひとつの代数系から出発してもさまざまな方法により新たな代数系が作られることを理解します。群の公理系は集合への作用と親和性があることから、ここでは逆に置換の性質から出発して群の公理系に到達するという道筋をたどります。一般の群論の基礎を確認した後は有限群の性質に触れます。有限群に対してはシローの定理が成り立つので、素数べき位数の群について理解を深めていきます。																					
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標1	さまざまな実例において、環や群の公理がみだされていることを確かめることができる。																					
目標2	イデアルによる剰余類の集合や正規部分群による剰余類の集合が、それぞれ再び環や群になることが理解できる。																					
目標3	直積や半直積の手法により、新しい群を作ることができる。																					
目標4	置換の符号を計算し、巡回置換の積に分解することができる。																					
目標5	置換の符号を計算し、巡回置換の積に分解することができる。																					
目標6	計算問題や証明問題の成果を教員や他の受講生に対して明確に説明できる。																					
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1	環の性質： 集合と演算(交換法則、結合法則、分配法則)																					
2	環の性質： 環の例(有理整数環、多項式環、行列環)																					
3	環の性質： 環の公理系と性質																					
4	環の性質： 整除、約元、倍元、剰余																					
5	環の性質： イデアルと剰余環																					
6	置換群の性質： 群とその作用の例(正多面体と正多面体群)																					
7	置換群の性質： 群とその作用の例(ベクトル空間と線型群)																					
8	置換群の性質： 置換群(置換、符号、サイクル分解)																					
9	置換群の性質： 群の公理系																					
10	群の一般的な性質： 群の例(二面体群)																					
11	群の一般的な性質： 部分群(剰余類、指数、位数、生成系)																					
12	群の一般的な性質： 正規部分群と剰余群																					
13	群の一般的な性質： 準同型写像と準同型定理																					
14	群の一般的な性質： 素数位数の群、素数べき位数の群、シローの定理																					
15	群の一般的な性質： 抽象代数系(群、環、体、加群)への招待																					
ラック ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	教員による講義に加えて、演習問題(基礎的・発展的)を解く機会を設けます。演習問題に積極的に取り組むことによって、その前後の講義の理解度が高まります。				工夫 その 他の	演習問題の成果は教室で発表してもらいます。他者への説明を通して内容の理解度が一層高まります。															
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	大多数の学生は、毎週1時間程度の予習が必要です(全15時間)。あらかじめ参考書を読み疑問点を整理しておくこと、計算問題を解いておくことはよい予習のやり方です。																				
	事後 学修	大多数の学生は、毎週2時間程度の復習が必要です(全30時間)。ノートを読んで論理の進行を追えるか確かめてください。練習問題(計算問題、証明問題)を解くことは、理解の定着のためには必須の事項です。																				
教科書	教科書を指定しません。																					
参考書	雪江 明彦 代数学1 群論入門 日本評論社 2010年 雪江 明彦 代数学2 環と体とガロア理論 日本評論社 2010年 中学校学習指導要領 平成29年告示 解説 数学編 文部科学省(著)日本文教出版 2018年																					
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10										
	学期末試験	50%																				
	課題レポート	50%																				
注意事項	講義に参加する、文献を調べる、計算問題を解くなど、自ら勉強する姿勢を強く求めます。機械的な計算の反復練習を嫌がらないことと、すぐには模範解答に頼らないことが、学力の定着と能力の向上につながります。																					
備考	受講生の予備知識、理解度、関心の度合いによっては、授業の内容に挙げた項目、順序、程度を変更することがあります。																					
リンク																						
	URL																					